

表-10 《問22(3) 理解の手だて—問21(3) 理解の程度》( )内;中学校 単位% (N=307㊦, 138㊧)

21(3) 学校の教育目標理解の程度 22(3) 学校の教育目標を理解する手だて	①ほとんど関心がなく理解していない	②言葉としては覚えているが理解不十分	③よく理解し、家庭での教育にも役立てている
① 学校通信などを活用した	33.3 (43.5)	60.8 (47.8)	5.9 (8.7)
② 学年・学級通信などを活用した	33.7 (46.9)	56.2 (50.0)	10.1 (3.1)
③ P T A会報などを活用した	62.5 (76.9)	34.4 (19.2)	3.1 (3.8)
④ 授業参観日などの会合の時、話をした	42.9 (54.4)	49.6 (36.8)	7.5 (8.8)
⑤ 家庭訪問の時、話をした	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)

保護者の場合…図-39と、理解との関連…表-10

自校の教育目標を保護者に理解してもらうための方法としては、P T A会報とか学校だよりなどの活用が多いのではないかと考えていたが、予想に反し、「授業参観日などの会合のとき話をした」が、小・中とも約40%で最も多くなっている。

また、小・中によって講じられる手だてに相当違いがあるものと考えていたが、各項目とも、ほとんど同じような割合となっているのは意外であった。

ただ、「学年・学級通信などを活用した」のは小学校が中学校よりわずかに多くなっているのに対し、「P T A会報などを活用した」のは、中学校が小学校よりも多くなっている。

このことから、小学校の教師は、教育目標理解

のために、中学校の教師よりは、学校や係りに任せず、担任としての努力をしている割合が大きいように感じとれる。

なお、理解の程度と関連させてみた表-10でもわかるように、「よく理解し家庭での教育にも役立てている」保護者は、いずれの方法をとった場合でも10%以下であり、教師、児童生徒の場合と同様、今後の取り組みが望まれる。

問27の(1)(2)(3)を総括して 次のことが言える。

- 小学校に比べ中学校は、取り組みにやや甘さが見られるのではなからうか。
- 児童生徒に目標理解をさせる場合、目標を平易な表現に改め提示をしさえすれば具現へつながるように思いがちだが、理解や実践へ結びつけるためには、もっと工夫しなければならない。
- 保護者に対する目標理解の努力が必要である。

学校の教育目標具現の現状

問23 学校の教育目標の達成されつつある様子が、児童生徒一人一人の言動に表れていますか。

(1) あなたの考えに合うものを、下記の項目より、1つ選んでください。

図-40

(N=313㊦, 139㊧, 85㊨)

